

Hello! FUJISEI

No.34

「人口ピラミッド」ってご存じでしょうか？ 中央に縦軸を引き、底辺を0歳にして頂点を最高年齢者として年齢を刻み、左右に男・女別に年齢別の人口数または割合を棒グラフで表した「年齢別人口構成図」のことを言います。

通常は、出生数が多く、死亡等により、だんだん年齢を重ねていくうちに人口が少なくなるため、三角形のピラミッド状の形になることから、こう呼ばれていますが、医療の発達や少子化の影響により、その形状が変化します。

我が国の人口ピラミッドは、戦後の昭和25年までは、若い年齢ほど人口が多く、すその広い「富士山型」でした。しかし、昭和25年以降、出生数が減少し、昭和35年には人口減退を示す「つぼ型」に近くなり、その後、30年代終わり頃から第2次ベビーブームの40年代後半にかけて出生数がやや増加したため、ピラミッドのすそが再び広がり「星型」に近くなりました。その後は、昭和48年をピークに出生数が再び減少傾向となったため、現在の人口ピラミッドは二つのふくらみを持つ「ひょうたん型」に近い形となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」によると、このまま推移すると、2055年の人口ピラミッドは両手を広げたような右のような形に

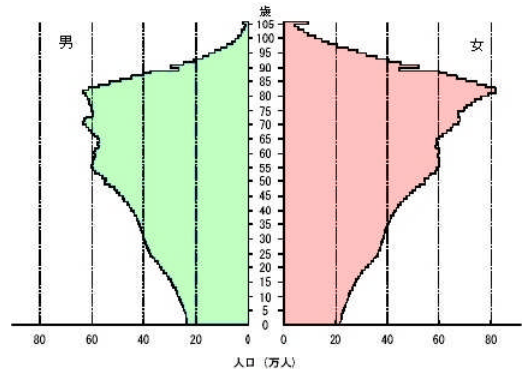
少子・高齢化の影響は様々な分野に

2055年には老年人口40%の超高齢社会に

なるそうです。そして、その時の総人口は8,993万人となり、現在は22.7%である65歳以上の老年人口が40%になるという超高齢社会となっています。

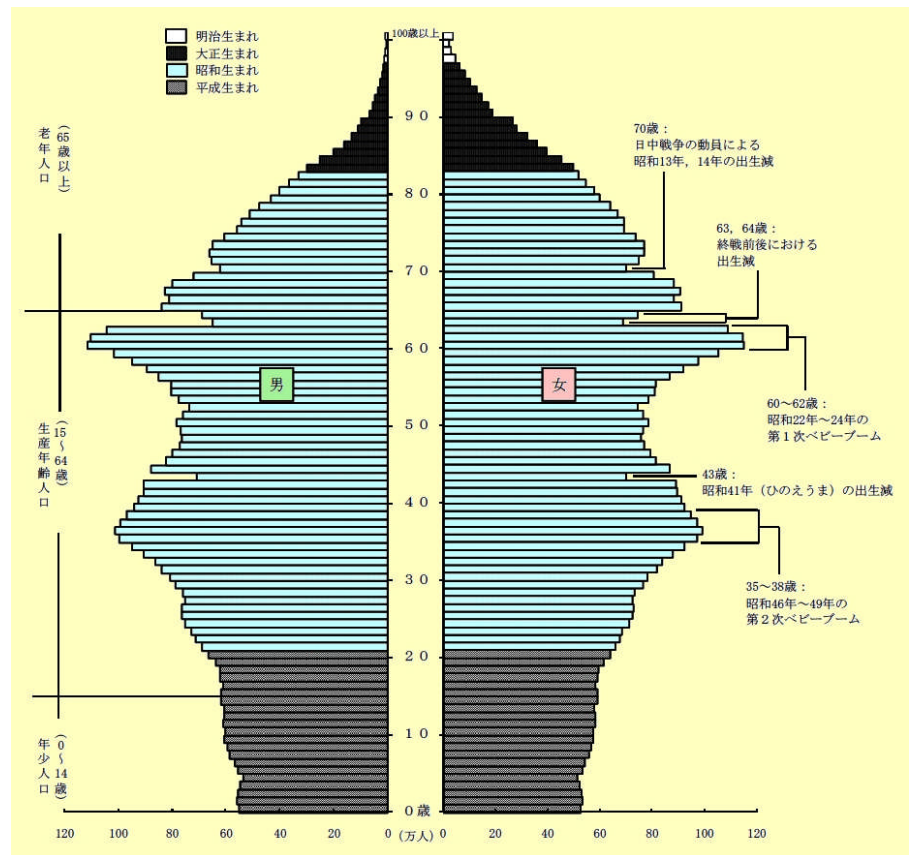
なにかと話題になる少子・高齢化ですが、医療・年金といった社会保障、雇用問題、税制など、様々な部分で影響が出てきます。

2055年の人口ピラミッドは…



国立社会保障・人口問題研究所
「日本の将来推計人口」（平成18年12月推計）

我が国の人口ピラミッド（平成21年10月1日現在）



総務省「人口推計（平成21年10月1日現在）」